

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
意匠法特論【MR】 (Advanced Study of Design Law)	MPCB03	2	1年次	後期	山田 繁和(ヤマダ シゲカズ)

授業のねらい概要	意匠法要論における学習内容を前提に、意匠事件の基本的判例を検討し、判決を通じて意匠の本質とは何かという視点を理解し、諸々の問題にも対処できるようにする。
----------	--

回数	テーマ	授業の内容・教育方法	予習/復習
第1回	意匠制度(意匠審査と審判)	意匠法要論を踏まえ、デザインを保護する意匠法の審査・審判、及び裁判の事例から、意匠制度の実務について理解を深める。	予習:意匠法要論の復習 復習:参考書1、2の確認(予習、復習で4時間)
第2回	意匠の判断主体と意匠法上の意匠(1)(全体意匠)	知財高裁平成17年(行ケ)10679号「コネクタ-接続端子」事件に見る意匠の判断主体と意匠法上の意匠	予習:判決文、関連文献の確認 復習:参考書1、2の確認(予習、復習で4時間)
第3回	意匠の判断主体と意匠法上の意匠(2)(部分意匠)	平成19年(行ケ)10402号審決取消訴訟「短靴」に見る意匠の認定	予習:判決文、関連文献の確認 復習:参考書1、2の確認(予習、復習で4時間)
第4回	意匠の認定(1)(全体意匠)	東京地裁平成18年(ワ)13406号及び控訴審平成18年(ネ)10084号「ゴルフ用ボールマーカー」に見る意匠の認定	予習:判決文、関連文献の確認 復習:参考書1、2の確認(予習、復習で4時間)
第5回	意匠の認定(2)(部分意匠)	知財高裁平成18年(ケ)10317号「ブリー」に見る部分意匠の認定	予習:判決文、関連文献の確認 復習:参考書1、2の確認(予習、復習で4時間)
第6回	意匠の新規性と類否判断(1)(物品の類似、全体意匠)	①【物品】知財高裁平成17年(ネ)10079号「カラビナ」に見る意匠の物品の類似 ②【全体意匠】平成21年(ワ)2726号意匠権侵害差止訴訟「長靴」に見る意匠の類否判断(平成21年11月5日大阪地裁)	予習:判決文、関連文献の確認 復習:参考書1、2の確認(予習、復習で4時間)
第7回	意匠の新規性と類否判断(2)(部分意匠:平面物)	【部分意匠:平面物】平成21年(行ケ)10209号審決取消訴訟「貼り菓」に見る意匠の類否判断(平成22年1月27日知財高裁)	予習:判決文、関連文献の確認 復習:参考書1、2の確認(予習、復習で4時間)
第8回	意匠の新規性と類否判断(3)(部分意匠:立体物)	【部分意匠:立体物】大阪地裁平成20年(ワ)14302号「マンホール蓋用受枠」に見る部分意匠の類否判断	予習:判決文、関連文献の確認 復習:参考書1、2の確認(予習、復習で4時間)
第9回	意匠の創作非容易性(1)(全体意匠)	拒絶査定不服審判2016-12304「水準器」に見る全体意匠の創作非容易性	予習:判決文、関連文献の確認 復習:講義資料と講義内容の確認(予習、復習で4時間)
第10回	意匠の創作非容易性(2)(部分意匠)	拒絶査定不服審判2016-13021「鼓膜切開刀替刃」に見る部分意匠の創作非容易性	予習:判決文、関連文献の確認 復習:講義資料と講義内容の確認(予習、復習で4時間)
第11回	一意匠一出願	①知財高裁平成28年(行ケ)第10034号「容器付冷菓」事件に見る一意匠一出願 ②知財高裁平成20(行ケ)10321号「包装用袋」事件に見る一意匠一出願と補正	予習:判決文、関連文献の確認 復習:講義資料と講義内容の確認(予習、復習で4時間)
第12回	関連意匠	拒絶査定不服審判2016-16743「ガス検知器用検査機」と査定不服審判2016-16744「ガス検知器用検査機」に見る関連意匠の評価	予習:判決文、関連文献の確認 復習:講義資料と講義内容の確認(予習、復習で4時間)
第13回	意匠の先使用权・独占的通常実施権	①【先使用】大阪地裁平成10年(ワ)11674号「包装用かご」意匠権侵害差止訴訟に見る意匠の先使用(平成12年9月12日判決) ②【通常実施権】昭和57年(ワ)7035号意匠権民事訴訟「ヘアブラシ」に見る独占的通常実施権	予習:判決文、関連文献の確認 復習:講義資料と講義内容の確認(予習、復習で4時間)
第14回	意匠の利用、意匠権の侵害	①【意匠の利用】東京地裁平成16年(ワ)793号「プリント配線板用コネクタ」に見る意匠の利用 ②【侵害】平成26年(ワ)33834号意匠権侵害に基づく差止訴訟「ハリケード用錘」に見る意匠権の侵害	予習:判決文、関連文献の確認 復習:講義資料と講義内容の確認(予習、復習で4時間)
第15回	間接侵害・損害賠償	東京地裁平成28年(ワ)年13870号「運搬台車」に見る意匠の間接侵害	予習:判決文、関連文献の確認 復習:講義資料と講義内容の確認(予習、復習で4時間)

到達目標	デザイン創作に対する意匠制度の実務と活用に関し、判決を通じて意匠の本質とは何かという視点を理解し、実務上の諸々の問題(意匠の特定、新規性(類否)判断、創作非容易性判断、侵害)の基本的な対処ができるようになることを目標とする。(ミニマム・リクワイアメント) (1)意匠の成立要件を理解し、説明することができる。 (2)意匠法上の新規性及び創作非容易性について理解し、説明することができる。 (3)意匠の特定、認定について理解し、説明することができる。 (4)特殊な意匠出願(分割、変更)について理解し、説明することができる。 (5)意匠権の代表的な全体意匠、平面物、部分意匠の類否判断に関する判決を理解し、様々な意匠の類否判断について説明することができる。 (6)意匠権の代表的な意匠の範囲、意匠の利用(抵触)に関する判決を理解し、意匠の範囲、意匠の利用について説明することができる。 (7)意匠権の代表的な先使用权や通常実施権に関する判決を理解し、意匠の先使用权や通常実施権について説明することができる。 (8)意匠権の代表的な直接侵害に関する判決を理解し、意匠の直接侵害について説明することができる。 (9)意匠権の代表的な間接侵害に関する判決を理解し、意匠の間接侵害について説明することができる。
評価方法	・出席率80%以上(12回以上)の出席を単位付与の条件とする。なお、出席は、教員による出席確認と復習シートの提出の両方が一致した場合を出席とする。また、やむを得ない理由による欠席は復習シートの提出によって考慮する。 ・学業成績の評価は、基礎・基幹科目のため基本的には、報告発表、復習シートの提出、期末レポートの成績により行う。 ・期末レポートの提出日、テーマ等については、提出の2週間前までに連絡する。
成績評価基準	デザイン創作に対する意匠制度の実務と活用に関し、実務上の基本的な対処ができるようになっていくかについて、平常点、報告発表、復習シートの提出、期末レポートで評価し、それぞれ60%以上で合格とする。 報告発表20%、復習シート20%、期末レポート60% A:100~90点 B:89~80点 C:79~70点 D:69~60点 F:59~0点

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			新版意匠法	末吉互	中央経済社
			早わかり意匠判例集侵害編	佐藤英二	日本評論社
			意匠審査基準		特許庁
			意匠法	茶園茂樹編	有斐閣
			登録無効審判2016-880009~11	拒絶査定不服審判2016-2705~8	

受講心得	<p>各回の前の講義にて、次回の判決で争点としているテーマについて、特許庁の審査・審判の実務、企業等における実務からみた実務運用について約20分程度解説する。これを踏まえ、次回はテーマごとに判決や審決の内容、問題点を報告し、ディスカッション等を加えて検討し、特許庁や裁判所の判断手法や判決等における最善の実務における対応策を解説し、実務を理解・整理をする。</p> <p>授業において積極的な発言と意見を出して講義を進めるため、意匠法要論の講義内容を十分復習しておくこと。</p> <p>各判例・裁判例において問題となったテーマにつき、参考書1、2の該当箇所を確認すること。</p> <p>受講者は、必ず1回以上のテーマの報告発表を行うこととする。</p> <p>毎回、事前に次回以降の判決(必要に応じて審決)を配布する。</p> <p>講義後は、必ず復習して講義で習った条文とその要旨を自らで簡潔にまとめ、復習シートを提出すること。出席確認とこの復習シートの提出を持って、出席とみなすこととする。</p> <p>復習して簡潔にまとめた条文とその要旨について、誤解や不正確な理解が多く見られる点については、講義内で解説するので、理解に努め、不明点をなくしていくこと。(フィードバック)</p> <p>本科目は録画形式メディア授業【MR】対応です。</p>
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日2限(1号館9階山田研究室) ・講義に関する質問については、当該講義時間の前後で対応する。 ・オフィスアワーについては、講義の後に適宜、質問、相談等対応いたします。また、学生からのアポイントに応じて適宜時間調整して対応します。 ・受講生、既履修者による弁理士試験問題等の全ての知的財産権制度の不明な点の質問も受け付けます。